

高知県長期漁海況予報

2025年下半期の漁況・海況の予報

2025年 8 月 発行 高知県水産試験場

このたび「令和 7 年度第1回太平洋いわし類・マアジ・さば類長期漁海況予報会議」が開催され、国立研究開発法人水産研究・教育機構水産資源研究所、高知県、関係都道府県等による最新の調査結果から、2025年 8 月から12月の期間についての長期漁海況予報が作成されました (<https://www.fra.go.jp/home/kenkyushokai/press/>)。高知県関係を中心に、その概要をお知らせします。

予報の概要

海況（8 月から12月）

黒潮：8 月から12月にかけて、足摺岬沖、室戸岬沖では、離岸傾向で推移するものの、一時的に接岸傾向となることがある。

黒潮流軸は、C型基調で推移するが、10月以降一時的にA型となる可能性がある。

沿岸水温：土佐湾の沿岸表層水温は、8 月から12月は「平年並」から「かなり高め」で推移する。

漁況（8 月から 12 月）

ゴマサバ（立縄）：前年を上回るものの平年を下回る

マアジ：前年を下回る

マイワシ：前年並

カタクチイワシ：前年を下回る

ウルメイワシ：前年を下回る

* 詳しい内容については次ページ以下をご覧ください。

【海況の経過（2025年3月から2025年7月）】

1 黒潮

潮岬以東の黒潮流型は、A型流路の大蛇行が継続していましたが、4月下旬に非大蛇行流路となり、7月上旬にC型に変化しました。

足摺岬沖の黒潮流軸は、3月上旬～下旬にかけて離岸距離50～60マイルで「かなり離岸」で推移し、その後、蛇行部の東進により、4月上旬～5月上旬にかけて離岸距離50～100マイルで「かなり離岸」～「著しく離岸」で推移しました。5月中旬～7月上旬にかけて高知県沿岸の黒潮流路は直線流路に変化し、離岸距離10～40マイルで「やや離岸」～「接岸」で推移しました。その後、小蛇行が形成され、通過と共に離岸し、離岸距離110～145マイルで「著しく離岸」で推移しました。

室戸岬沖の黒潮流軸は、3月上旬から中旬にかけて、45～65マイルで推移しましたが、蛇行部の接岸により、3月下旬から4月上旬にかけて離岸距離25～30マイルで「やや離岸」で推移しました。4月上旬～5月上旬は、蛇行部の東進に伴い、離岸距離60～80マイルで「かなり離岸」～「著しく離岸」で推移しましたが、5月中旬～7月中旬にかけて高知県沿岸の黒潮流路は直線流路に変化し、離岸距離10～30マイルで「やや離岸」～「接岸」で推移しました。その後、小蛇行の通過に伴い、黒潮流軸は離岸傾向に変化し、離岸距離115マイルで「著しく離岸」で推移しました（表1、図1、2）。

図1 黒潮大蛇行の流路パターン

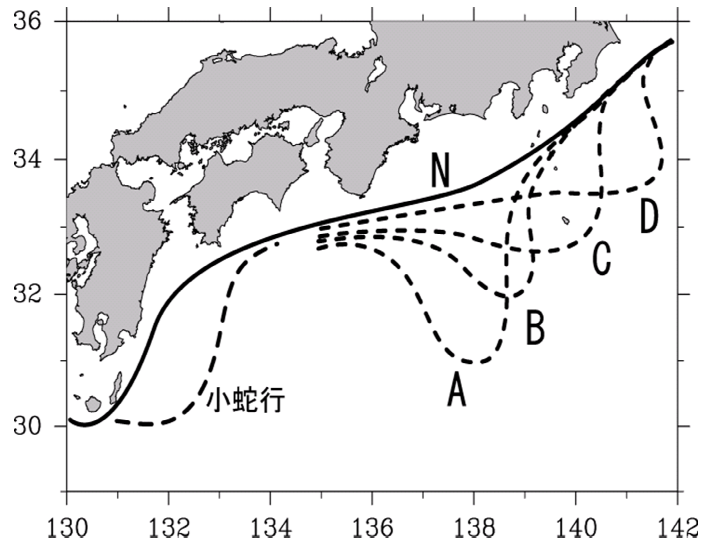


表1 黒潮流軸位置階級区分
(足摺岬、室戸岬)

階級区分	範囲(マイル)
接岸	<25
やや離岸	25≤、<45
かなり離岸	45≤、<65
著しく離岸	65≤

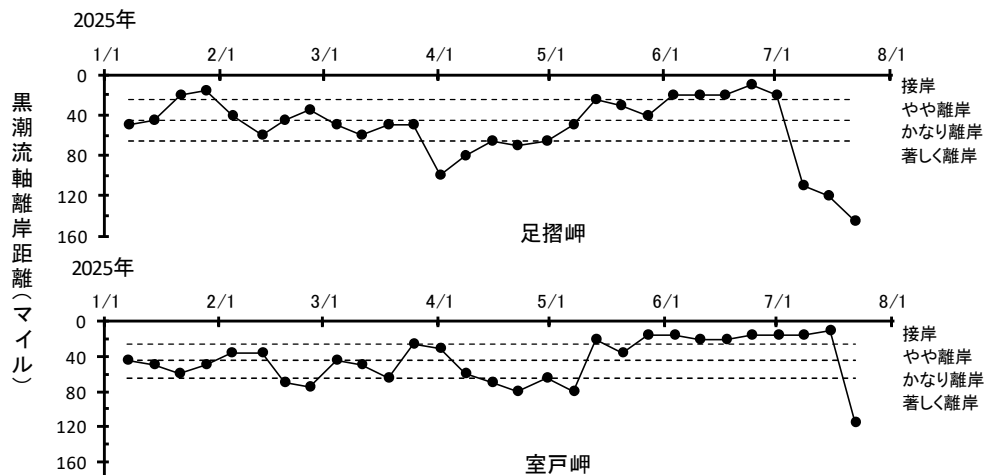


図2 足摺岬及び室戸岬からの黒潮流軸離岸距離（高知県漁海況速報より）

※流軸離岸距離は、正南（S）方向

2 沿岸海況

沿岸定線調査によると、2025年3月の土佐湾沿岸水温は、水深0～10m、50～125mで「平年並」、水深20～30mで「やや低め」、水深150～200mで「やや高め」～「かなり高め」でした。4月は、水深0～100mで「平年並」、水深125～200mで「やや高め」～「かなり高め」でした。5月は、水深0～30m、50m、200mで「やや低め」、その他の水深で「平年並」でした。6月は、水深175mで「かなり高め」、その他の水深で「平年並」でした。7月は、水深0m、175mで「かなり高め」、水深125～150mで「やや高め」、水深30mで「やや低め」、その他の水深で「平年並」でした（図3、表2、3）。

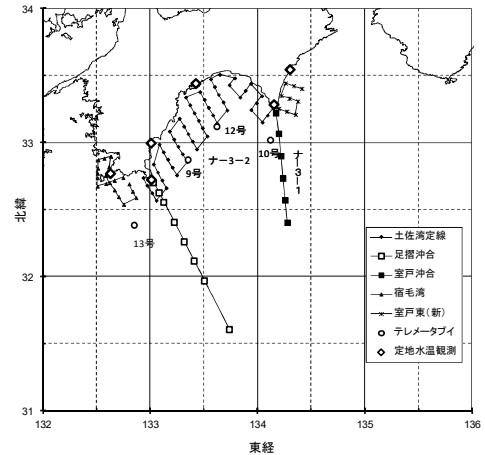


図3 高知県沿岸定線調査地点図

表2 2025年1月～7月の土佐湾内水深別水温偏差

水深	2025年1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月
0m	+-	++	+-	+-	-	+-	++
10m	+-	++	+-	+-	-	+-	+-
20m	+-	+-	-	+-	-	+-	+-
30m	+-	+-	-	+-	+-	+-	-
50m	+-	+-	+-	+-	-	+-	+-
75m	+-	+-	+-	+-	+-	+-	+-
100m	+-	+-	+-	+-	+-	+-	+-
125m	+-	+	+-	+	+-	+-	+
150m	+-	+	+	+	+-	+-	+
175m	++	++	++	++	+-	++	++
200m		+	+	+	-	+-	+-

※平均値の算出は1991～2020年、色付き部分は、欠測を示します。

表3 土佐湾水温平年偏差の階級区分

記号	呼称・内容	偏差範囲	記号	呼称・内容	偏差範囲
+++	著しく高め	2.2℃以上	---	著しく低め	-2.2℃以下
++	かなり高め	1.3～2.2℃	--	かなり低め	-1.3～-2.2℃
+	やや高め	0.6～1.3℃	-	やや低め	-0.6～-1.3℃
+-	平年並（プラス基調）	0.0～0.6℃	-+	平年並（マイナス基調）	0.0～-0.6℃

* 平年値の算出範囲は1991～2020年

3 特異現象（3～7月）

<海況>

- ・5月13日以降、高知県沿岸の黒潮が足摺岬から室戸岬にかけて直線流路に変化しました。
- ・7月2日、都井岬沖に小蛇行が形成されました。

<漁況>

- ・マルソウダ（室戸岬東岸大型定置網）：R7：1,277.7t（前年同時期比5.6倍）
- ・スルメイカ（大型定置網）：R7：126.2t（前年同時期比11.6倍）
- ・スルメイカ（一本釣り）：R7：13.6t（前年同時期比13.6倍）
- ・ゴマサバ（土佐清水市の立縄漁業）：R7：16.6t（前年同時期比83.0倍）
- ・キハダ（曳縄）：R7：23.4t（前年同時期比2.5倍）
- ・キハダ（大型定置網）：R7：42.2t（前年同時期比0.2倍）

【今後の見通し（2025年8月から12月）】

1 黒潮

小蛇行の東進の影響により、足摺岬沖、室戸岬沖ともに離岸傾向で推移しますが、その後、接岸傾向で推移するでしょう。

2 沿岸の水温

土佐湾沿岸域の表層水温は、「平年並」から「かなり高め」で推移しそうです。

【予測の根拠】

○黒潮

気象庁の表層水温・海流実況図、JCOPE2Mの予測に準じました。

○沿岸の水温

高松地方気象台の3か月予報（令和7年8月19日発表、予報期間：令和7年9月～11月）によると、9～11月の気温が四国地方で「高い」確率が60％であること。8月の土佐湾の水温は「平年並」～「やや高め」であったことに加え、表層海水温は気象の影響を受けやすいため、「平年並」～「かなり高め」になると予測しました。

漁 況

I さば類（ゴマサバ及びマサバ）

【漁況経過（2025年1月から6月）】

- (1) 宿毛湾の中型まき網によるサバ類水揚量は291.2トンで、前年比42.3%、平年比*24.8%でした。CPUEは0.9トン/日/統で、前年比46.8%、平年比32.1%でした。
- (2) 定置網（窪津・椎名2水揚地合計）によるゴマサバ水揚量は44.5トンで、前年比141.2%、平年比28.9%、マサバ水揚量は89.7トンで、前年比275.3%、平年比92.8%でした。
- (3) 立縄（足摺岬周辺）によるゴマサバ水揚量は35.1トンで、前年比424.1%、平年比40.5%で、CPUEは58.4kg/日/隻で前年比283.7%、平年比114.0%でした。また、水揚げの主体はゴマサバでした。

※平年比：10年平均（2014年から2023年）

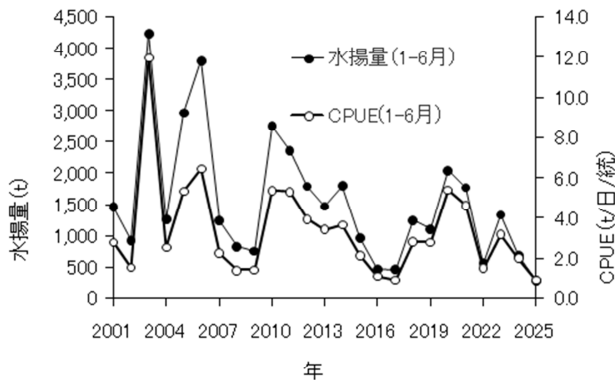


図4 宿毛湾中型まき網によるさば類水揚量及びCPUE

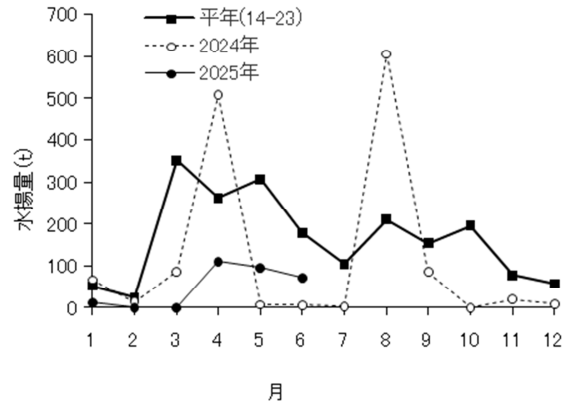


図5 宿毛湾中型まき網による月別さば類水揚量

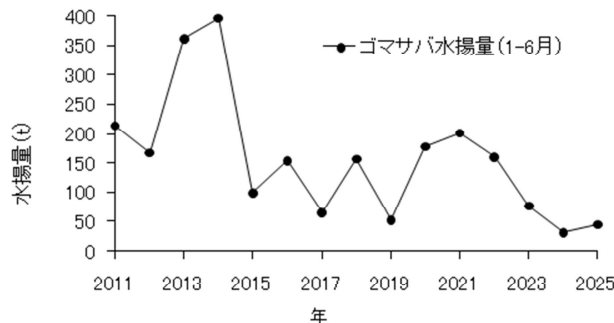


図6 大型定置網（窪津・椎名）によるゴマサバ水揚量

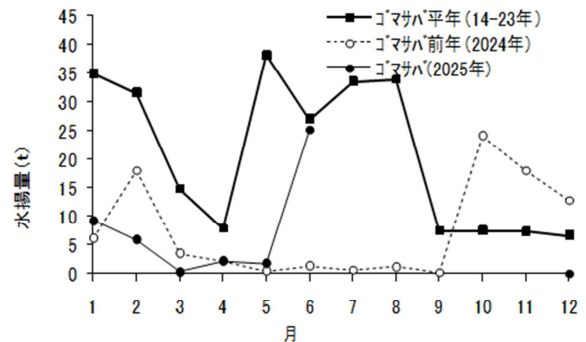


図7 大型定置網（窪津・椎名）による月別ゴマサバ水揚量

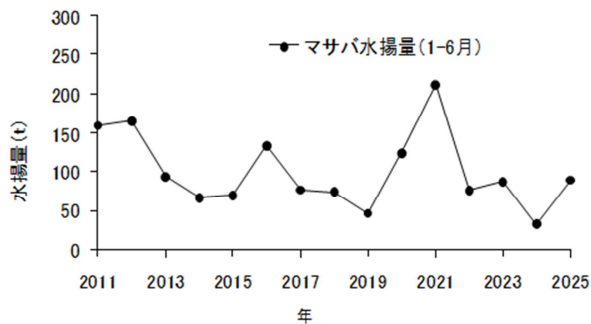


図8 大型定置網（窪津・椎名）によるマサバ水揚量

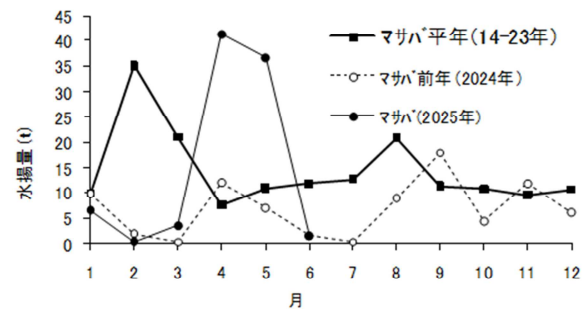


図9 大型定置網（窪津・椎名）による月別マサバ水揚量

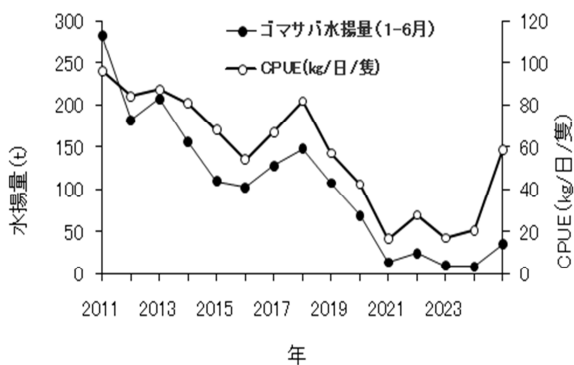


図 10 ゴマサバ立縄漁の水揚量及び CPUE

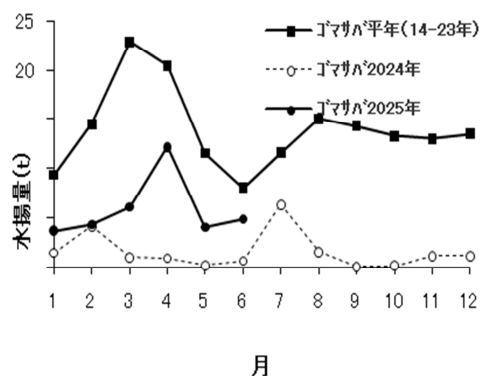


図 11 ゴマサバ立縄漁の月別水揚量

2 周辺各県

宮崎県：日向灘のまき網によるさば類の4月から6月の漁獲量は162トンで、前年比149%及び平年比8%（過去5年平均）でした。

愛媛県：豊後水道（宇和海）のまき網によるさば類の4月から6月の漁獲量は91.2トンで、前年比87%及び平年比8%（過去20年平均）でした。

和歌山県：紀伊水道外域東部のまき網による1月から6月の漁獲量は389トンで、前年比36%及び平年比41%（過去10年平均）でした。熊野灘南部の定置網による漁獲量は21トンで、前年比102%及び平年比62%でした。

【漁況予測（2025年8月から12月）】

(1) 対象海域及び漁業種類：立縄（足摺岬周辺）

＊定置網及び中型まき網の漁況は年変動が大きく予測は困難です。

(2) 漁獲対象年級群及び体長：3歳魚（2022年生まれ）から5歳魚（2020級生まれ）

(3) 来遊量：立縄漁では、前年を上回るものの平年を下回る。

（参考）前年（2024年）8月から12月の立縄（足摺岬周辺）

「ゴマサバ」水揚量：3.8トン

説明：立縄漁で漁獲されるサバ類のほとんどはゴマサバです。近年のゴマサバ水揚量は、減少傾向であるが、2024年下半年期及び2025年上半年期の水揚量及びCPUE（kg/日/隻）が増加傾向であることから2025年下半年期の水揚量は、前年を上回るものの平年を下回ると予測されます。なお、2024年度の資源評価においてマサバ及びゴマサバ太平洋系群の親魚量の動向は、近年5年間（2019～2023年）の推移から、マサバ及びゴマサバともに「減少」とされています。

II マアジ

【漁況経過（2025年1月から6月）】

- (1) 宿毛湾中型まき網の水揚量は、143.7トンで、平年比81%、前年比32%でした。
 銘柄別では、「ぜんご」（約100g未満）が13.9トンで、平年比12%、前年比4%、
 「あじ」（約100g以上）が129.8トンで、平年比203%、前年比123%でした。魚体測定した6月の尾叉長組成は22.0～24.9cmが主体でした。
- (2) 窪津・椎名2定置網の合計水揚量は172.2トンで、平年比97%、前年比57%でした。
 魚体測定した尾叉長組成は、1月に22.0～25.9cm、2月に17.0～17.9cm、4月に15.0～16.9cm、5月に6.0～7.9cm及び18.0～22.9cmが主体でした。

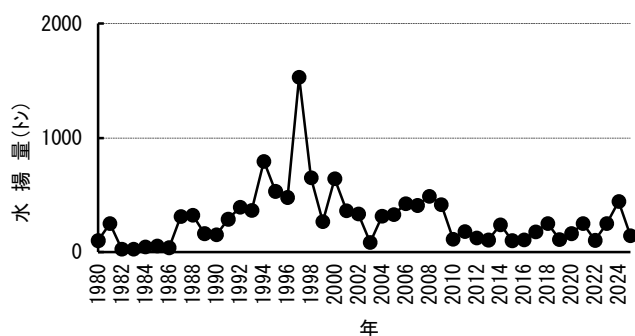


図12 宿毛湾中型まき網によるマアジ水揚量の経年変化（1-6月）

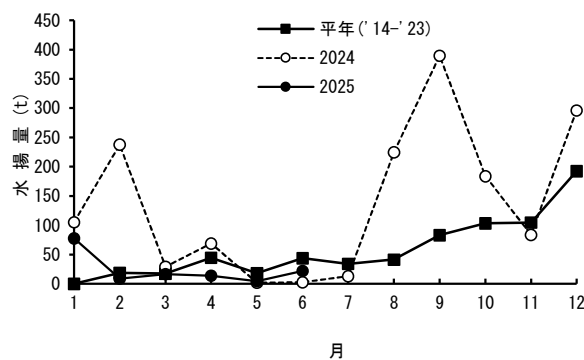


図13 宿毛湾中型まき網による月別マアジ水揚量

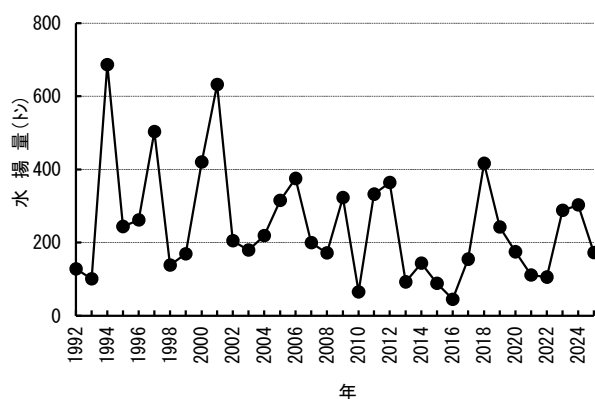


図14 大型定置網（窪津・椎名の2水揚げ地合計）によるマアジ水揚量の経年変化（1-6月）

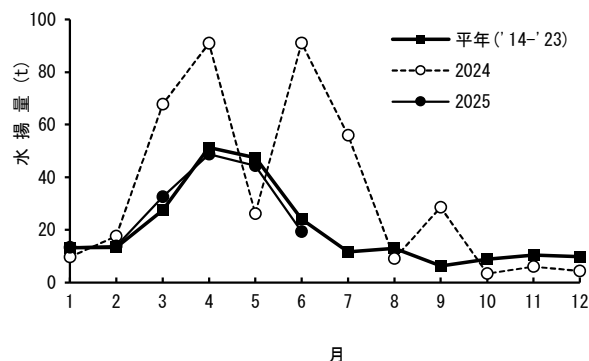


図15 大型定置網（窪津・椎名の2水揚げ地合計）による月別マアジ水揚量

2 周辺各県の経過

宮崎県：日向灘のまき網による4月から6月の水揚量は172トンで、前年比37%、平年（過去5年平均）比53%でした。

愛媛県：豊後水道のまき網による4月から6月の水揚量は124.9トンで、前年比220%、平年（過去20年平均）比24%でした。

和歌山県：紀伊水道外域2そうまき網による1月から6月の水揚量は42トンで、前年比67%、平年（過去10年平均）比20%でした。

【漁況予測（2025年8月から12月）】

(1) 漁獲対象：0歳魚（2025年生まれ）、1歳魚（2024年生まれ）

(2) 来遊量：前年を下回る。

(参考) 前年（2024年）7月から12月の宿毛湾の中型まき網

「ぜんご」水揚量：990.9トン

説明：宿毛湾中型まき網における上半期の水揚量と下半期の水揚量には有意な正の相関がみられ（ $p < 0.01$, $n = 41$, $R^2 = 0.39$ ）、2025年の下半期の水揚量は161.7トンと予測されることから、来遊量は前年を下回ると予測されます。なお、2025年度の資源評価において、マアジ太平洋系群の親魚量の動向は、「横ばい」とされています。

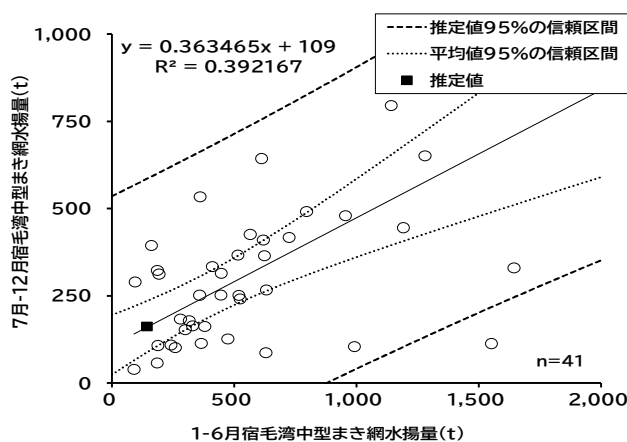


図 16 宿毛湾中型まき網におけるマアジの上半期水揚量と下半期水揚量との関係（1985～2025年）

Ⅲ マイワシ

【漁況経過（2025年1月から6月）】

1 高知県

(1) 宿毛湾の中型まき網による水揚量は311.6トンで、平年比38%、前年比92%でした。

(2) 定置網（窪津・椎名2水揚地合計）による水揚量は3.7トンで、平年比9%でした。なお、前年の同時期は水揚げがありませんでした。

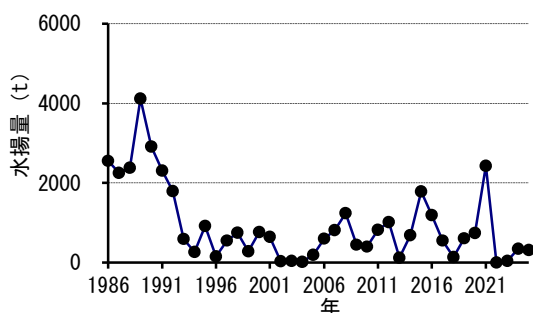


図 17 宿毛湾中型まき網によるマイワシ水揚量の経年変化（1-6月）

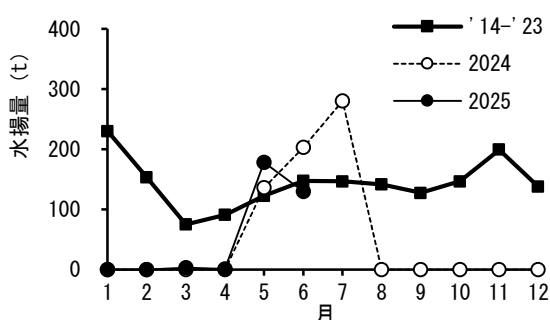


図 18 宿毛湾中型まき網による月別マイワシ水揚量

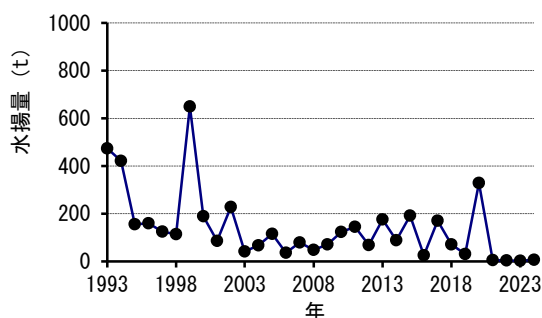


図 19 大型定置網（窪津・椎名2水揚地合計）によるマイワシ水揚量の経年変化（1-6月）

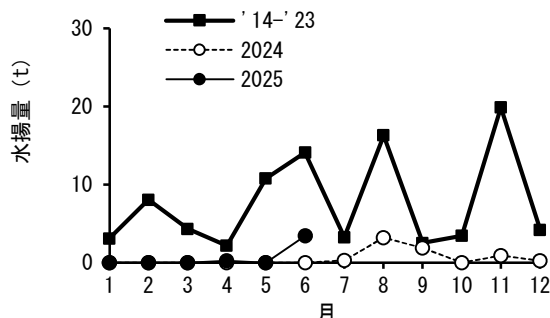


図 20 大型定置網（窪津・椎名2水揚地合計）による月別マイワシ水揚量

2 周辺各県の経過

宮崎県：日向灘のまき網による4月から6月の水揚量は3,539トンで、前年比1,075%、平年比244%でした。

大分県：豊後水道南部のまき網による4月から6月の水揚量は569.0トンで、前年比289.5%、平年比（1986年～2024年の平均値）18.3%でした。

愛媛県：豊後水道外域のまき網による4月から6月の水揚量は2,219.2トンで、平年比225%でした。前年の水揚はありません。

和歌山県：紀伊水道外域東部から熊野灘南部の1そうまき網による4月から6月の水揚はほとんどありませんでした。

【漁況予測（2025年8月から12月）】

(1) 漁獲対象：0歳魚（2025年生まれ）及び1歳魚（2024年生まれ）以上。

(2) 来遊量：前年並。

(参考) 前年（2024年）8月から12月のマイワシ水揚量

宿毛湾の中型まき網：0トン

定置網（窪津・椎名合計）：6.2トン

説明：来遊量：2025年1月～4月の土佐湾におけるマイワシのシラス漁況から、0歳魚（2025年級群）の発生は前年と同様低水準であると考えられます。4～6月の宿毛湾における中型まき網の水揚量は前年をやや下回っており、来遊量は前年並と予測されます。なお、2025年度の資源評価において、マイワシ太平洋系群の親魚量の動向は「横ばい」と評価されています。

IV カタクチイワシ

【漁況経過（2025年1月から6月）】

1 高知県

(1) 宿毛湾の中型まき網による水揚量は692.2トンで、平年比163%、前年比91%でした。銘柄別では、未成魚・成魚の銘柄「たれ（銘柄の被鱗体長は概ね65mm以上）」が681.1トンで、平年比235%、前年比91%、幼魚「どろ（銘柄の被鱗体長は概ね40mm～65mm）」が11.2トンで、平年比8%、前年比72%でした。

(2) 宿毛湾の小型まき網による水揚量は0.6トンで、平年比1%、前年比59%でした。銘柄別では、未成魚・成魚「たれ」が漁獲なし、幼魚「どろ」が0.2トン、平年比0.3%、前年比35%、稚魚「かえり（銘柄の被鱗体長は概ね35mm～40mm）」が0.4トンで、平年比1%、前年比81%でした。

(3) 定置網（窪津・椎名2水揚地合計）による水揚はありませんでした。

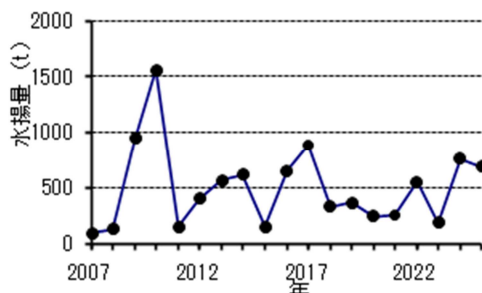


図 21 宿毛湾中型まき網によるカタクチイワシ水揚量の経年変化（1-6月）

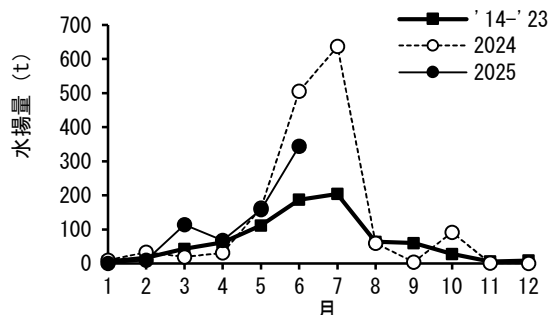


図 22 宿毛湾中型まき網による月別カタクチイワシ水揚量

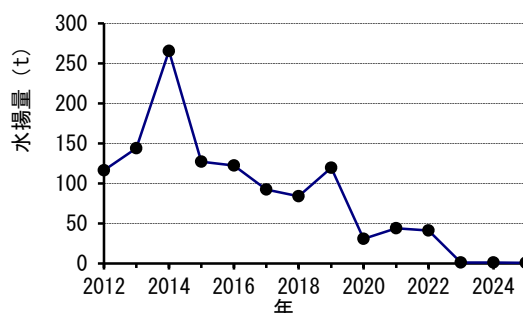


図 23 宿毛湾小型まき網によるカタクチイワシ水揚量の経年変化（1-6 月）

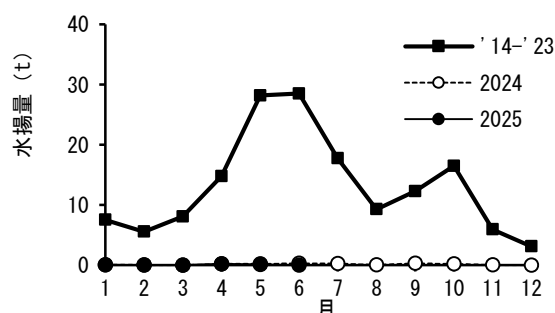


図 24 宿毛湾小型まき網による月別カタクチイワシ水揚量

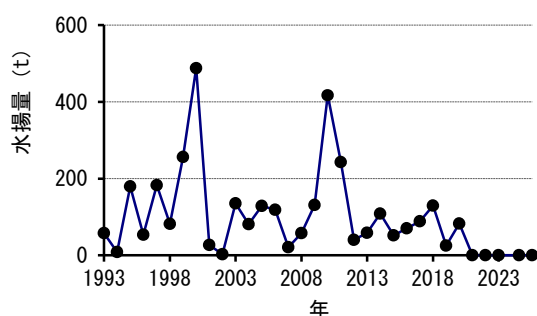


図 25 大型定置網（窪津・椎名 2 水揚地合計）によるカタクチイワシ水揚量の経年変化（1-6 月）

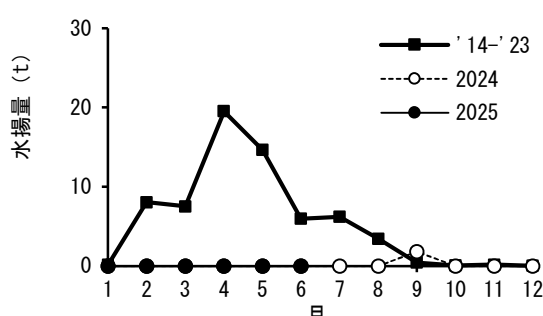


図 26 大型定置網（窪津・椎名 2 水揚地合計）による月別カタクチイワシ水揚量

2 周辺各県の経過

宮崎県：日向灘のまき網による 4 月から 6 月の水揚量は 291 トンで、前年比 57%、平年比 45% でした。

大分県：豊後水道南部のまき網による 4 月から 6 月の水揚量は 83.0 トンで、前年比 112.2%、平年比 14.0% でした。

愛媛県：豊後水道外域のまき網による 4 月から 6 月の水揚量は 1,932.8 トンで、前年比 67%、平年比 124% でした。

和歌山県：成魚は主たる漁獲対象ではありません。

【漁況予測（2025 年 8 月から 12 月）】

(1) 漁獲対象：0 歳魚（2025 年生まれ）、1 歳（2024 年生まれ）以上。

(2) 来遊量：前年を下回る。

(参考) 前年（2024 年）8 月から 12 月のカタクチイワシ水揚量

宿毛湾の中型まき網：155.0 トン

宿毛湾の小型まき網：0.7 トン

定置網（窪津・椎名合計）：1.8 トン

説明：上半期の宿毛湾小型まき網における「かえり」銘柄の水揚量と下半期の中型まき網水揚量には、有意な正の相関がみられます ($p < 0.01$ $n=19$ 、 $R^2=0.183$)。上半期の小型まき網における「かえり」銘柄の水揚量 (0.4 トン) から、右図の回帰式を用いて推測すると、下半期の中型まき網水揚量は約 226.6 トン

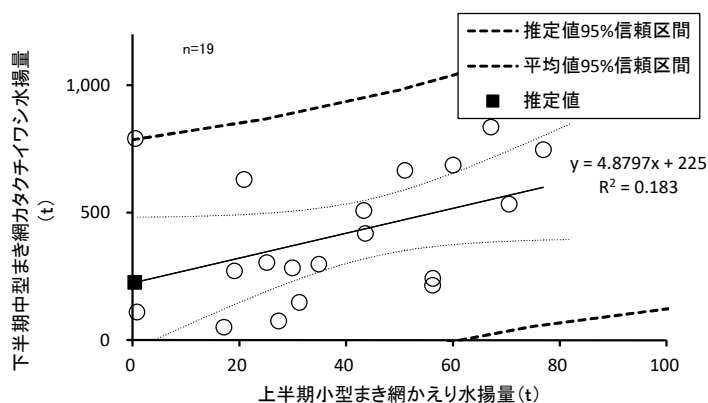


図 27 上半期の宿毛湾小型まき網「かえり」銘柄水揚量と下半期の宿毛湾中型まき網カタクチイワシ水揚量との関係（2005～2024 年、2012 年を除く）

ンと予測されます。前年度の下半期の中型まき網水揚量は792.0トンであったことから、来遊量は前年を下回ると予測されます。

なお、2025年度の資源評価においてカタクチイワシ太平洋系群の親魚量の動向は「増加」と評価されています。

V ウルメイワシ

【漁況経過（2025年1月から6月）】

1 高知県

- (1) 宿毛湾の中型まき網による水揚量は458.4トンで、平年比31%、前年比46%でした。
- (2) 土佐湾中央部（宇佐）の多鈎釣による水揚はありませんでした。
- (3) 定置網（窪津・椎名2水揚地合計）による水揚量は32.5トンで、平年比127%、前年比293%でした。

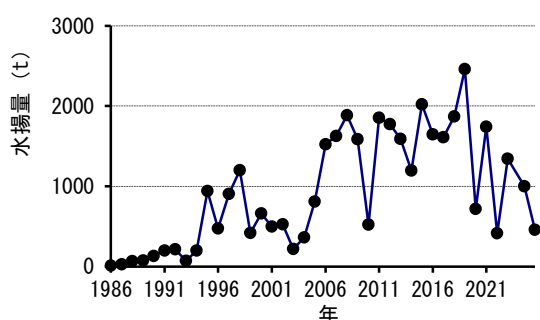


図 28 宿毛湾中型まき網によるウルメイワシ水揚量の経年変化（1-6月）

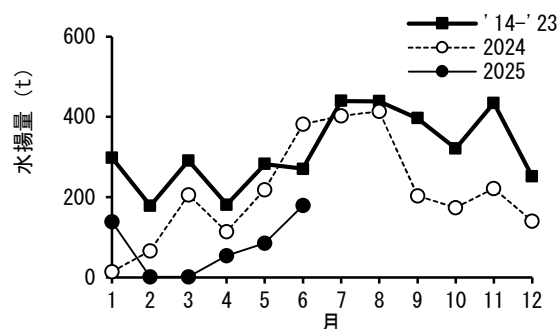


図 29 宿毛湾中型まき網による月別ウルメイワシ水揚量

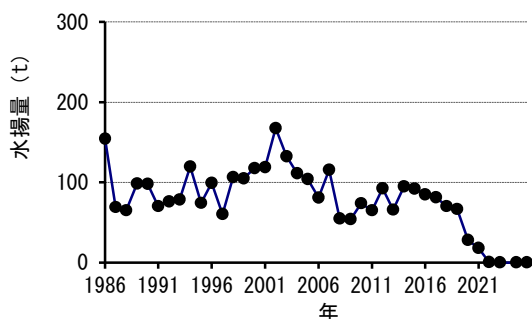


図 30 宇佐の多鈎釣によるウルメイワシ水揚量の経年変化（1-6月）

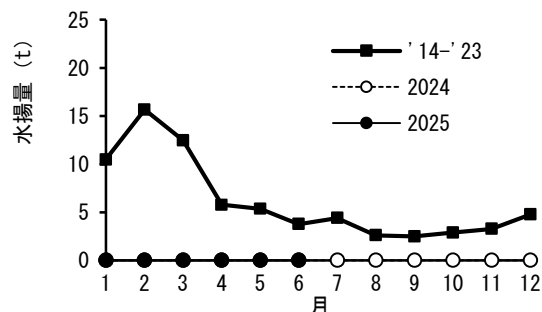


図 31 宇佐の多鈎釣による月別ウルメイワシ水揚量

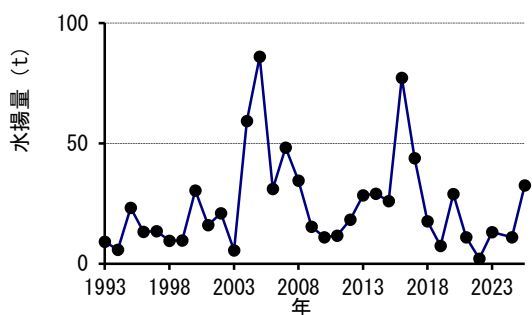


図 32 大型定置網（窪津・椎名2水揚地合計）によるウルメイワシ水揚量の経年変化（1-6月）

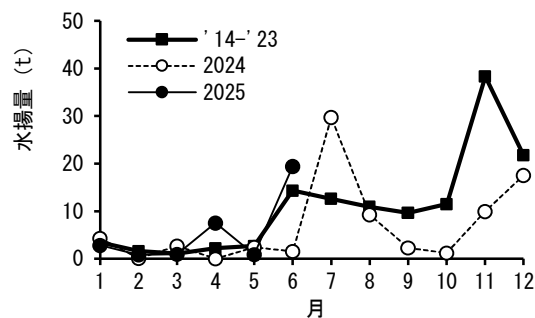


図 33 大型定置網（窪津・椎名2水揚地合計）による月別ウルメイワシ水揚量

2 周辺各県の経過

宮崎県：日向灘のまき網による4月から6月の水揚量は556トンで、前年比44%、平年比35%でした。

大分県：豊後水道南部のまき網による4月から6月の水揚量は240.9トンで、前年比66.9%、平年比114.0%でした。

愛媛県：豊後水道外域のまき網による4月から6月の水揚量は750.7トンで、前年比78%、平年比71%でした。

和歌山県：紀伊水道外域東部から熊野灘南部の1そうまき網による4月から6月の水揚はありませんでした。

【漁況予測（2025年8月から12月）】

(1) 漁獲対象：0歳魚（2025年生まれ）、1歳（2024年生まれ）以上。

(2) 来遊量：前年を下回る。

（参考）前年（2024年）8月から12月のウルメイワシ水揚量

宿毛湾の中型まき網：1,153.3トン

多鈎釣漁（宇佐）：0トン

定置網（窪津・椎名合計）：40.4トン

説明：宿毛湾中型まき網における上半期

の水揚量と下半期の水揚量には有意な正の相関がみられ（ $p < 0.01$ 、 $n=48$ 、 $R^2=0.67$ ）、2025年の下半期の水揚量は773.2トンと予測されることから、来遊量は前年を下回ると予測されます。

なお、2025年度の資源評価においてウルメイワシ太平洋系群は「減少傾向」にあります。

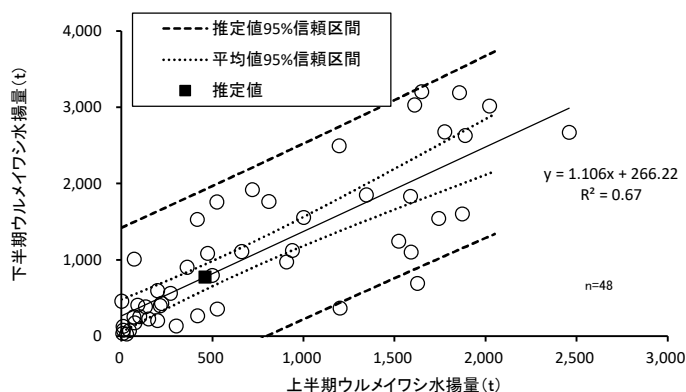


図34 宿毛湾中型まき網におけるウルメイワシの上半期水揚量と下半期水揚量の関係（1978～2025年）

VI シラス

【漁況経過（2025年1月から6月）】

1 高知県

(1) 機船船曳網（安芸地区4水揚地・春野町・錦浦・田野浦の7水揚地合計）による水揚量は318.6トンで、平年比53%、前年比134%でした。シラスの魚種組成は、4月以降はカタクチイワシ主体となりました。

(2) 宿毛湾の小型まき網による水揚げはありませんでした。

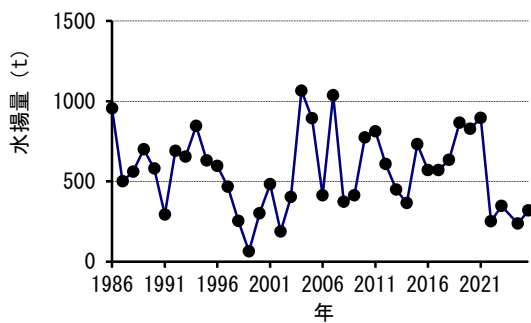


図 35 機船船曳網（安芸地区、春野町、錦浦、田野浦計 7 水揚地）によるシラス水揚量の経年変化（1-6 月）

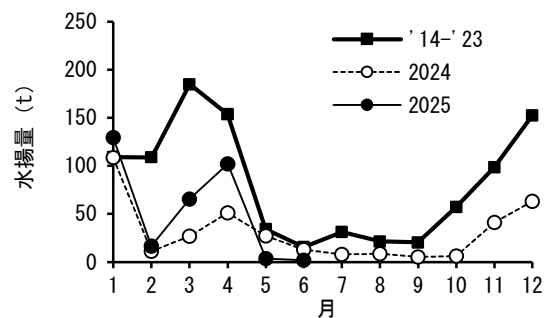


図 36 機船船曳網（安芸地区、春野町、錦浦、田野浦計 7 水揚地）による月別シラス 水揚量

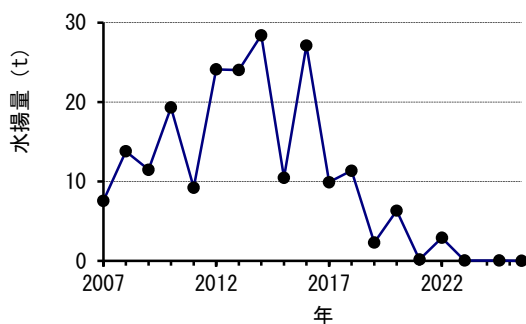


図 37 宿毛湾小型まき網シラス水揚量の経年変化（1-6 月）

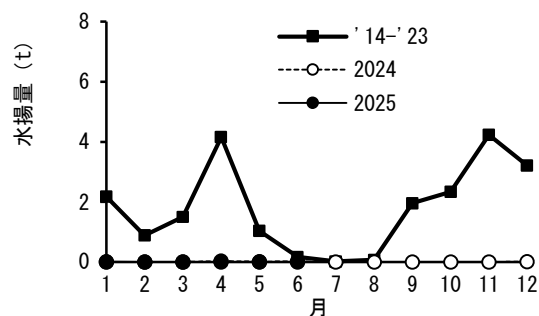


図 38 宿毛湾小型まき網シラス月別水揚量

2 周辺各県の経過

宮崎県：4 月から 6 月の総水揚量は 323 トンで、前年比 273%、平年比 166%でした。

大分県：佐伯湾における 4 月から 6 月の総水揚げ量は 33.1 トンで、前年比 55.4%、平年比 30.8/% でした。

徳島県：紀伊水道内における 3 月から 6 月（主漁期 4 月から 6 月）の水揚量は 19.1 トンで、前年比 40%、平年（直近 5 年平均値）比 12%でした。

大阪府：大阪湾における 1 月から 6 月（主漁期 4 月から 6 月）の水揚量は 105.4 トンで、前年比 148%、平年（直近 10 年平均値）比 68%でした。

【漁況予測（2025 年 8 月から 12 月）】

(1) 漁獲対象：0 歳魚（2025 年生まれ）

(2) 来遊量：シラスの来遊には、産卵親魚の産卵状況、他海域からの卵稚仔の輸送、餌料、漁場形成に影響する沿岸域の海洋環境等が複雑に影響することから、現時点では長期予測を行う根拠を見いだせていません。